

宇都宮大学 工学部 情報工学科

プログラミング演習 I

平成 16 年度前期 木曜日 5, 6 時限 (12:50 - 14:20)

担当：東海林, 上村, 趙, 外山

細島, 川上, 月川

大学院生 TA：石本大明, 井上裕司, 岩田祐一, 佐々木寿明
根本良男, 深谷暢之, 森竜太, 安良岡由規, 山根将太

<http://www.ced.is.utsunomiya-u.ac.jp/lecture/2004/prog/p1/>

1 目的

Cの基礎を学ぶ、いくつかの演習問題を解き、簡単なプログラムを書く力を身につける。

2 実施方法

ネットワーク実験室(1)のパーソナルコンピュータを用いて行う。

3 計算機の使用できる時間帯

授業時間を含む木曜日の午後、さらに、火曜日の7,8時限を演習Iの学生のための優先時間帯としてネットワーク実験室(1)を開放している。

4 演習の日程と内容

15回の授業(予備日1回を含む)が予定されており、合計4問の課題を与える。単位取得のためには、全回出席すること、および、授業中に課せられたすべてのレポートが受理されることが必要である。正当な理由があって欠席した場合は、別途考慮する。前記の条件を満たした者に対し、レポート内容、レポート提出状況、授業態度等を総合して評価を行う。なおレポート提出の詳細は、次節の「レポートについて」を参照すること。

- 4/15: 入門とプログラミング環境, 担当 月川 (9-105, tsuki) ¹
- 4/22, 5/6, 13: プログラミング基礎, 担当 外山 (9-603, fubito)
 - ・ 問1 (素数を求める)。レポート提出期限: 5/20 (木) 午後 12:40
- 5/20, 27, 6/3: 関数, 担当 東海林 (9-607, shoji)
 - ・ 問2 (10進数と2進数)。レポート提出期限: 6/10 (木) 午後 12:40
- 6/10: デバッガ, 担当 月川 (9-105, tsuki)
- 6/17, 24, 7/1: 配列, 担当 趙 (9-301, zhao)
 - ・ 問3 (整列)。レポート提出期限: 7/8 (木) 午後 12:40
- 7/8, 15, 22: 数値計算ライブラリ, 担当 上村 (9-407, gami)
 - ・ 問4 (数値解析法)。レポート提出期限: 7/29 (木) 午後 12:40
- 7/29: 予備日

5 レポートについて

- ・ レポートは、「課題内容を理解し、分かりやすく説明されているか」、「プログラムは正しく動作するか」等を総合して評価を行う。レポートの内容から、課題についての理解が不十分と判断された場合には、別途口頭試問又はペーパーテストが課され、成績評価が決定される。
- ・ レポートには、以下の2点が必要である。

1. レポートの書式を満足している

¹括弧内は部屋番号と email アドレスを示す。Email アドレスは、後ろに @is.utsunomiya-u.ac.jp が付く。他同。

2. 必要事項がもれなく記載されている

- ・ レポートの書き方について、別途「レポートの書き方について」を参照すること。レポートが受理された者に対してのみ、評価が行われる。
- ・ レポートは、レポート提出期限までに完成させて提出すること。ただし、書式の不備に関しては、書式修正期限までに、1回だけレポートを修正できる。書式不備のレポートは、提出期限日の翌日昼12時までには返される。書式修正期限は、提出期限日の翌週木曜午後12:40とし、それまでに修正したレポートを提出すること。図1に、課題が出される日を基点にレポート提出の時間表を示す。

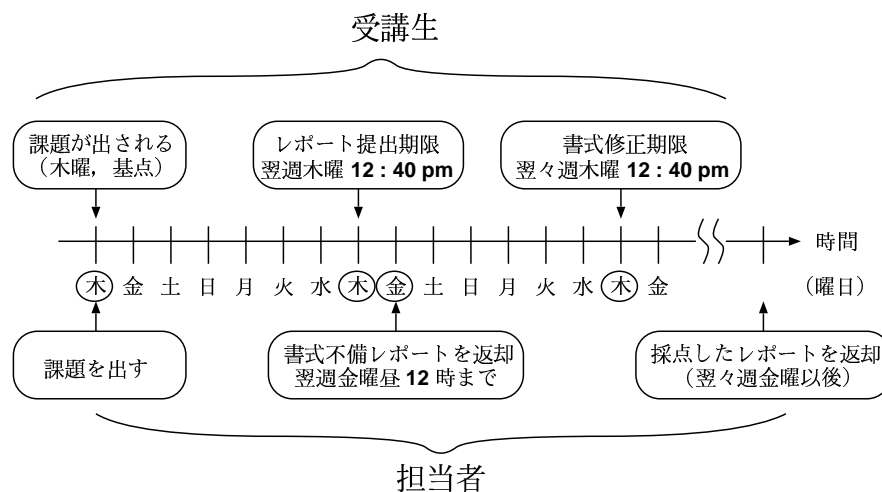


図1: プログラミング演習 Iにおけるレポートの提出期限

なお、書式の修正時に、内容の大幅な加筆・改変があった場合には、レポート提出期限からの遅延として扱われ、減点の対象となるので注意すること。

- ・ レポートの提出方法の詳細について、別途「レポートの提出方法」を参照すること。

6 注意事項

- 1) 病気やケガなど、正当な理由があって欠席する場合には、事前に必ず担当者に連絡すること。補講などについて担当者から指示される。
連絡先：028-689-6295（ネットワーク管理室），6258（東海林），6260（上村），6280（趙），6271（外山），6278（細島），6273（川上），6269（月川）。
- 2) 遅刻やレポート提出の遅れは、成績評価の際に減点の対象となる。
- 3) 20分以上の遅刻は欠席として扱われるので注意すること（さらに無断と判明した場合、単位が取得できなくなることになる）。
- 4) 機器に不具合があったり使用方法を誤って機器を破損した場合には、直ちに担当者に連絡すること。
- 5) プログラム等をプリンタに出力する場合には、自分のものであることが判別できるように工夫すること。また、なかなか自分のプリントが出力されないからといって、むやみに出力命令を繰り返し実行しないこと。
- 6) ネットワーク実験室（1）での飲食、喫煙は厳禁である。

- 7) 演習時間中には、必ず指定課題を行うこと。
- 8) コンピュータの使用を終了した場合、必ずログオフをすること。ログインをしたままにすると、個人情報情報を窃用される等、不利を被るおそれがあるので十分に注意すること。同様に、レポート等ファイルの属性を他人から覗かれないように設定すること。
- 9) 演習に下記参考図書²等、文法の分かる参考資料を一冊持参すること（複数可）。

参考図書

- 1. 例題で学ぶ C 言語 (ISBN: 4-7649-0289-3)
熊谷毅, 玉城眞吉, 白川洋充 著, 近代科学
- 2. 定本 明解 C 言語 <第 1 巻> 入門編 (ISBN: 4-797-31151-7)
柴田望洋 著, ソフトバンクパブリッシング
- 3. ASCII SOFTWARE SCIENCE Language C 言語入門 (ISBN: 4-756-10270-0)
Les Hancock, Morris Krieger, Saba Zamir 著, 倉骨 彰, 三浦 明美 共訳, アスキー
- 4. プログラミング言語 C 第 2 版 ANSI 規格準拠 (ISBN: 4-320-02692-6)
Brian W. Kernighan, Dennis M. Ritchie 著, 石田晴久 訳, 共立出版

²参考図書の詳細は、<http://www.amazon.co.jp/>で調べると分る。